

稲わら焼却防止で クリーンな青空を

稲わらは貴重な有機資源です。
焼かずに有効利用しましょう。

すき込みで地力アップ！



収集して有効活用

わら焼きはみんなの迷惑！！

STOP わら焼き

稲わらを有効に活用して土づくりをしよう！

■稲わらすき込み効果と方法■

- 稲わらの水田へのすき込みは、作土層を増やし、土壌を柔らかくし、土壌窒素を多くするなど堆肥とほぼ同じ効果があります。
- すき込み時期は秋が基本です。稲刈り後早く行うほど、分解する期間が長くなるため、腐熟が促進されます。
- 稲わらの分解を進めるために、石灰窒素(20kg/10a)や腐熟促進剤を散布してからロータリーやプラウ等ですき込みます。

表 主な稲わら腐熟促進剤

名称	施用量 (kg/10a)	使用のポイント等	参考価格 (円/10a)
ウロンC	7.5	併せて尿素を5kg/10a施用	5,400
石灰窒素	20	微生物資材と併用不可	2,800
ワーコム	20		5,000
アグリ革命	2	稲わらがよく湿っているときに均一に散布	2,300
わらエース	30		6,000
わらゴールド	30~60	表土と浅め(10cm位)に混合	2,600~ 5,200

- 基肥窒素量は、すき込み2~3年目までは5~10%多くし、3~4年後は慣行量、4~5年後は5~10%少なくするなど生育状況に応じて加減します。
- 稲わらのすき込み水田では、生育初期にガスの発生がやや多いので、適切な水管理や中干し、溝切りなどを行い土壌に酸素を入れることが必要です。



中南地域県民局地域農林水産部

農業普及振興室 TEL : 0172-33-2903 FAX : 0172-34-4390

黒石普及分室 TEL : 0172-52-4335 FAX : 0172-53-4114